

学術情報センターニュース 第38号

last update: 1996.12.25

目次

<トピックス>

- [学術情報センター10周年記念式典・祝賀会 盛會に祝う](#)
- [国際符号化文字集合\(UCS\)対応文字フォントの開発](#)
- [超高速ネットワークの国際相互接続実証実験計画](#)
- [目録所在情報サービスおよび情報検索サービスの休止](#)
- [学術情報センター電子図書館サービス開始に向けて\(2\)](#)
- [総合目録データベースにおける和洋の統合およびVOLによる書誌分割の廃止](#)
- [新目録所在情報サービス説明会を開催](#)
- [目録情報に関する質問書/回答書検索システムをWWWで公開](#)

<NACSISサービス案内>

- [国際電子メールサービスにおけるドメイン名変更](#)
- [公衆電話網経由の28.8kbpsによるサービス開始](#)
- [新データベースの紹介](#)
- [情報検索サービスの試験利用の開始](#)
- [英国国際専用回線の開通日の訂正](#)
- [学術情報センターシステムの継続手続き](#)
- [科学研究費補助金による利用期限\(2月15日\)](#)
- [「学術雑誌目次速報データベース」の進捗状況とマニュアルの改訂](#)
- [接続ニュース](#)
- [NACSIS-ILL利用状況\(平成8年前期\)](#)
- [NACSIS-IRデータベース収納状況](#)
- [NACSIS-CATデータベース構築状況](#)

<教育・研修>

- [平成8年度総合目録データベース実務研修終了報告](#)
- [平成8年度学術情報センター・セミナーの開始](#)
- [神戸大学共催の目録システム地域講習会\(雑誌コース\)終了報告](#)

<講演会など>

- [創立10周年記念講演会](#)
- [データベース'96 TOKYOなどに出展](#)

<その他>

- [人事異動](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACSISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp

創立10周年記念式典・祝賀会 盛会に祝う

去る11月1日(金)、本センターの創立10周年記念事業を、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)において挙行しました。昭和61年4月に大学共同利用機関として創設されて以来、満10年を迎えたことを祝う記念事業として、式典と、記念講演会、祝賀会を開催しました。

当日は、文部省、国公立大学、大学共同利用機関などをはじめ、センターの事業に協力いただいている学会・協会、関係団体などからの代表者と、本センターの旧職員など関係者を含めて、全国から348名の出席をいただきました。

記念式典では、猪瀬所長が式辞として創設以来からこれまでの、関係機関、関係者のご支援とご協力に対する心からの感謝とあわせて、これまでの情報通信基盤整備の取り組みを紹介するとともに、情報通信基盤の三大要因であるネットワーク、コンテンツ、アプリケーションに対する取り組みを進展させ、この10周年を契機として、目的達成へ新たな決意を述べました。

次いで奥田幹生文部大臣の祝辞を、林田学術国際局長が代読し、「今後、マルチメディア化など高度情報化が進む中で、文部省としては、ネットワークの高度化、大容量化やデータベース作成の支援など学術情報システムの構築に一層の努力を傾注していく」との、お祝いの詞をいただきました。

来賓として列席いただいた緒方信一郎国立国会図書館長の祝辞では、本センターとの協力関係が、我が国の図書館活動と学術情報サービスの発展に大きな成果をなしてきたと紹介されました。また、関西新館で計画中の電子図書館システムは、本センターとの連携と協力を一層進展させることになると述べられました。

来賓の吉川弘之東京大学総長は、人類が持っている最大の問題は情報をいかに蓄積し、次世代に継承するかということではないかと述べられ、研究者は情報を作りだすばかりであるが、いかに保存し伝えていくかという仕事が、作る仕事と並行して、大いに重要であると紹介されました。情報の蓄積と伝達に関する研究開発を行い、同時にサービスも行うという本センターの重要な役割を進展させることへの今後の期待をかけた祝辞をいただきました。

大学共同利用機関を代表して、佐々木高明国立民族学博物館長からの祝辞では、「今世紀の科学技術の進展なかでも情報通信手段の発達には、情報の大量蓄積とその選択的な入手を地球規模で可能にする画期的な出来事でありました。本センターがこの10年間に整備された我が国最大のネットワークと、それを通じて提供される学術情報サービスは、国内の大学・研究所の研究活動を支える先導的役割を担ってきました。これに伴って国内の研究環境は著しく国際化されました。今後は、21世紀型の先端的情報拠点の構築に向けて、政・官・財の援助を期待する」という、本センターにとってこの上ない応援をいただきました。

また、全国の国・公・私立の大学などから多数の祝電をいただきました。式典では限られた時間のために、すべての祝電を披露することはできませんでしたが、ここで、改めて厚くお礼申し上げます。

式典終了後、祝賀会が開かれ、猪瀬所長の挨拶の後、天城勲(財)高等教育研究所理事長、中村守孝科学技術振興事業団理事長から祝辞をいただきました。佐藤禎一文部省大臣官房長、吉田政幸図書館情報大学長をはじめとする来賓の方々によって鏡開きを行い、大野公男本センター名誉教授の発声で乾杯した後、歓談となりました。

この10周年記念事業の実施にあたり、文部省、大学、関係機関、学会・協会、企業、団体等から、多大なご支援とご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。

この場をかりて、厚くお礼申し上げます。

(総務課)

国際符号化文字集合(UCS)対応文字フォントの開発

1.経緯

学術情報センターでは、将来的に中国語、韓国語、その他の言語をシステムで扱えるようにするために、国際符号化文字集合(UCS:Universal Multiple-Octet Coded Character Set)に対応した文字フォントの開発を行っている。

NACSIS-CATデータベースは、大学図書館等で所蔵する図書、雑誌資料の目録データを収録している。それらの資料には世界中のあらゆる言語の資料が含まれるが、現在システムで扱える言語のものに限られている。すなわち、JISX0201およびJISX0208に加え、ドイツ語やフランス語などに現れるウムラウト、アクサンなどを独自の拡張文字セット(EXC文字セット)で定義し、使用しているのが現状である。

しかし、次世代のデータベースとしてより広範囲な言語を扱うことができるように、UCSを標準としたシステム構築を検討することとした。一方、NACSIS-CATのユーザーである各大学図書館等のクライアント側システムも、UCSへの対応を進めていただく必要がある。そこで、UCSを前提としたソフトウェア、FEPの開発を促進するためにも、学術情報センターでUCSフォントを作成、公開することとした。

2.UCSとは

UCSとは、日本語、中国語などの漢字圏を含めた世界的に共通なコード体系の文字セットである。1993年に国際規格ISO/IEC10646-1として制定され、1995年1月にJISX0221として日本の規格に採用された。この規格で現在定義されているのは、基本多言語面(BMP:Basic Multilingual Plane)と呼ばれる部分の約3万6千文字である。そのうち、CJK統合漢字といわれる中国語、日本語、韓国語で使われる漢字を標準化した部分では、約2万1千字の漢字が定義されている。

3.フォントの仕様と利用方法

- (1)名称および書体：「NACSIS-UCS-min」，明朝体
- (2)フォントタイプ：Windows-NT用のTrueTypeフォーマットフォント
(Windows95用TrueTypeフォント，Unix用のPSフォーマットフォントは準備中)
- (3)文字種：CJK統合漢字のほか、ラテン文字，ギリシャ文字，キリル文字，各種記号など約2万3千文字を収録
(ハングル，その他の言語の部分は，平成8年度以降に開発する予定)
- (4)利用方法：NACSISホームページから利用可能(<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/>)

詳細については、NACSISホームページを参照していただきたい。

(目録情報課)

超高速ネットワークの国際相互接続実証実験計画

学術情報センター研究開発部 浅野正一郎

1.GIIの実現に向けた国際協調

先進国では情報通信基盤の整備が行われ、共に情報通信ネットワーク・コンテンツ・アプリケーションの3分野に対して各種の施策が払われている。これら整備の国際的

な整合を図り、国際的な情報基盤(GII)を実現することを目標とした政策協調が1994年のナポリサミットで合意された。これを受けて、1995年2月にブラッセルでG7情報通信関係閣僚会合が開催され、「GIIの実現のための8原則」が採択された。これには、

- (1)ダイナミックな競争の促進
- (2)民間投資の奨励
- (3)適応可能な規制枠組みの定義
- (4)ネットワークへのオープンアクセス
- (5)サービスのユニバーサルな提供とアクセスの確保
- (6)市民に対する機会均等の促進
- (7)文化のおよび言語的多様性を含むコンテンツの多様性の促進
- (8)開発途上国に特に配慮した形での国際協力の必要性の認識

からなる。同時に「情報社会構築のための具体的政策課題(6方策)」に関しコンセンサスを得ている。ここには、

- (1)相互接続性と相互運用性の促進
- (2)ネットワーク、サービス、アプリケーションの世界市場の開拓
- (3)プライバシーとデータ・セキュリティの確保
- (4)知的所有権の保護
- (5)研究開発および新たなアプリケーションの開発に関する協力
- (6)情報社会の社会的な影響のモニタリング

が挙げられている。

G7各国と欧州委員会は、これらの政策課題を具体的に進行するために、11のパイロット・プロジェクトを同時に採択した。これの選択にあたり、産業・学会・行政機関等の異なる参加者間の協力を奨励することや、情報社会の発展にあたり明確な付加価値を有することが配慮されている。以下は選択されたプロジェクトの一覧である。

- (1)グローバル・インベントリー
- (2)超高速ネットワークの国際相互接続
- (3)異文化間の訓練と教育
- (4)電子図書館
- (5)電子博物館・美術館
- (6)環境・天然資源の管理
- (7)国際的な緊急危機管理
- (8)国際的なヘルスケアのアプリケーション
- (9)オンライン政府
- (10)中小企業のための国際市場
- (11)海事情報システム

学術情報センターでは、項番(2)と(4)に日本として参加している。本稿では、特に「超高速ネットワークの国際相互接続(GIBN)」に係わる実証実験について説明している。

2.GIBN(Global Interoperability of Broadband Networks)計画の概要

先項にも述べたとおり、G7各国と欧州委員会でGIBN計画が発足し、カナダ・日本が主導国となり実験を開始している。日本では学術情報ネットワークがATM方式による超高速ネットワークを運用しているが、カナダ(CANARIE)、英国(SuperJANET)、米国(vBNS)、欧州(EuropaNET)等で同様な運用が実施または計画されている。またCERNを中心に国際エネルギー研究ネットワークのATM化や、欧州連合のACTS計画のように超高速ネットワークのアプリケーション開発が進行している。GIBNは、これら先行している研究ネットワークを相互に接続し、相互接続性を検証すると同時に、各国で進められている超高速ネットワークに係わる技術開発成果を相互に利用することが目的となっている。期間は、当初は1997年3月を考えているが、延長が予定されている。

残念ながら、GIBNには予算が無い。このために、国際接続に必要となる通信回線は

国際通信事業者の無償援助によっている。日米間の回線は、KDDと米国AT&Tの協力で150Mb/sの回線が1996年9月から利用できる状況にあり、カナダ・ドイツ間にも別途の回線が設置されているが、これらの相互は接続できていない。

これから設置予定の回線を利用する計画を含めて、現在GIBNには14計画が進行しており、日本が関係するのは5計画(その内一つは通信衛星を使用するもの)である。進行中の日米間実験は、

(1)癌などの治療のための遠隔医療実証実験(参加機関：名古屋大学医学部，名古屋工業大学，郵政省通信総合研究所，米国デューク大学)

(2)神経内科における遠隔医療実証実験(参加機関：九州大学医学部，産業医科大学，郵政省通信総合研究所，米国クリーブランド・クリニック財団)

(3)遠隔研究協力実験(参加機関：金属材料研究所，理化学研究所，日本科学技術情報センター，米国ミシガン州立大学)

(4)超高速ネットワークの品質制御に関する実証実験(参加機関：学術情報センター，NTT研究所，米国ウィスコンシン大学)

であり、学術情報センターが参加する計画は1996年10月8日の早朝から実験を開始している。

学術情報センターでは、1993年から文部省科学研究費補助金(創成的基礎研究)により超高速ネットワーク技術の開発を学術情報センター・全国大学の研究者・NTT研究所の共同研究として実施しているが、GIBNに参加する計画では、この研究開発成果を米国研究者に公開し、アプリケーションの開発に結び付けることを目的としている。具体的には、

(1)現在のインターネットでは通信品質を積極的に制御することが困難であるが、ATM方式により、必要な通信帯域を確保し、アプリケーションが求める品質として実現する方式の実証(この基本技術は現在インターネット標準として提案している)

(2)講義等の映像のマルチキャスト伝送にあたり、映像情報を分解し、個々の伝送容量に適合する量の転送を実現し、結果として映像伝送の可用性を向上する方式の実証。

(3)これらの基本技術を用いて、映像サーバ(VoD)の国際利用の検証。からなる。

図には、現在の実証実験のための構成を示している。この構成の下で、今後は実証評価、性能評価並びに他の方式との総合比較を行いつつ、1997年1月に予定されているGIBN関係者会合等においてデモンストレーションを計画している。本計画は、日本の研究開発成果の国際的な提示が中心でもあり、総合的な評価を得るように努力を続ける所存である。

目録所在情報サービスおよび情報検索サービスの休止

年末年始および目録所在情報サービスのデータベース移行作業に伴い、以下のとおり各サービスを休止しますので、ご了承ください。

目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/NACSIS-ILL)

- ・データベース移行に伴う休止 平成8年12月24日(火)～平成8年12月27日(金)
- ・年末年始 平成8年12月28日(土)～平成9年1月6日(月)

情報検索サービス(NACSIS-IR)

- ・年末年始 平成8年12月28日(土)～平成9年1月6日(月)

電子メールサービス(NACSIS-MAIL)

- ・年末年始のサービス休止はありません。

目録所在情報サービスのデータベース移行に伴い、情報検索サービスのREQUESTコ

マンドの受け付けは，12月19日(木)までとなります。利用者みなさまには大変ご迷惑をおかけいたしますが，あらかじめご了承ください。

REQUESTコマンドを12月20日(金)から12月27日(金)の間に使用すると，

「USER ERROR, NO SUCH COMMAND」

というメッセージが出力され，受け付けられません。

なお，1月7日(火)からは通常どおりREQUESTコマンドを使用することができます。

(システム管理課)

[\[目次へ\]](#) [\[次へ\]](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACSISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp

学術情報センター電子図書館サービス開始に向けて(2)

1. 試行サービス参加学会への説明会

試行サービスの中で現在、26学会から59種の学会誌の提供を受けており、それらのコンテンツの作成を行っている。このほか、新たな学会が、電子図書館サービスへの参加検討を行っており、それらの学会もあわせて、平成9年度のサービスの概要を説明するための「学術情報センター電子図書館サービス説明会」を平成8年10月15日(火)に茗溪会館において開催した。

26学会36名の出席者に対して、センター側から、平成9年度のサービスの内容、著作権処理の考え方などの説明を行った。また、これに先立ち実施した試行参加の学会への学術情報センター電子図書館サービスに関するアンケートの集計結果の概要を報告した。

学会出席者からは、電子図書館サービスの学会誌刊行事業への影響、著作権使用料の対象範囲(期間および表示・出力形態)および今後の進め方についての質問や意見が出された。これらの点については、学術情報センターは、積極的に学会と話し合いを進め、現実的に解決していく考えである。

2. 新クライアントソフトウェアの公開

すでにお知らせしているとおり、今年度中に2回のクライアントソフトウェアの改訂を計画している。その1回目は、平成8年6月に、バージョン1.3として公開し、すでにモニターの方々に利用していただいている。2回目は、12月末に、バージョン2.0の公開を予定している。これには、クライアントだけでなく、サーバ側のソフトウェアおよびデータ形式の変更も含まれており、従来のクライアントソフトウェアは利用できなくなる。また、利用環境としては、SunOS2.1.x, Solaris 2.x版について開発を進めてきたところであるが、今回プラットフォームの拡大を行い、Solaris X86, EWS4800およびHP-UX上での利用も可能となる予定である。新クライアントソフトウェアの大きな特徴は、次のとおりである。

(1) 利用者番号の入力

利用者番号とそれに対応するパスワードを入力し、利用者の認証を行う。従来は、利用者の使用するワークステーションのIPアドレスによる利用認証を行っていたが、サービス開始に備え、個々の利用者を正確に管理するために利用者番号を導入する。また、これにより、従来ファイアーウォール等の関係で利用できなかった環境の方々の利用が可能となる。

(2) ウィンドウ

従来は、「検索用ウィンドウ」と「画像表示用ウィンドウ」の2つであったが、その機能を1つのウィンドウで処理することとした。また、このウィンドウのクローン機能を設け、並列的な処理を可能とするように変更した。

3. 公開中のコンテンツ情報

現時点のバージョン1での公開コンテンツは<http://www.nacsis.ac.jp/dl/dlcont-j.html> のとおりである。当分の間、バージョン1とバージョン2のサービスを並行して行い、順次、全データを新バージョンへ移行する計画である。

(データベース課)

現在、総合目録データベースでは、和洋資料を区別して別ファイルとしておりますが、新目録所在情報サービスを開始するのに併せて、これを統合します。これに伴い、書誌・所蔵レコードのIDは現行の洋書の番号体系を継続して一本化します。なお、既に付与された番号については、そのまま使用します。

ローカルシステムに総合目録データベースのデータを取り込む際に、和洋を区別し、かつ、和洋の判断を書誌・所蔵IDにより行っている場合は、プログラムの修正が必要となりますので、ご注意ください。なお、現行システムを使用する場合は、処理選択画面をはじめ画面上は和洋の区別を残します(ただし、和洋どちらで操作しても、同じデータベースに登録されます)。従って、画面番号により、和洋の判断をしている場合は、特にローカル側プログラムを修正する必要はありません。

IDは「2桁の識別子+7桁の一連番号+チェックディジット」からなり、識別子は以下のとおりです。

ファイル	和洋	現行	統合後
図書書誌	和	B N	B A
	洋	B A	
図書所蔵	和	C D	C C
	洋	C C	
雑誌書誌	和	A N	A A
	洋	A A	
雑誌所蔵	和	C B	C A
	洋	C A	

また、同時に、現在便宜的に行っているVOL数による書誌レコードの分割を廃止します。ただし、VOLが多い場合(VOL数が200程度以上)は、例外的に分割することになります。なお、現在分割されている書誌については、統合します。

(目録情報課)

新目録所在情報サービス説明会を開催

学術情報センターでは、図書館等の職員を対象とした標記説明会を下記の要領で実施します。

対象地区	会場	開催日
北海道地区	北海道大学	平成8年11月21日(木)
東北地区	東北大学	平成9年2月7日(金)
関東地区	東京医科歯科大学	平成9年1月10日(金)
甲信越地区	信州大学	平成9年2月21日(金)
東海地区	名古屋大学	平成9年2月14日(金)
北陸地区	富山大学	平成9年2月28日(金)
関西地区	京都大学	平成9年2月21日(金)
中国・四国地区	岡山大学	平成9年1月31日(金)
九州・沖縄地区	九州大学	平成9年1月21日(火)

参加申込み方法については、既にご案内済みですが、ご不明の場合は、事業部目録

情報課図書目録情報係(電話：03-3942-6983,6984)までお問い合わせください。

(目録情報課)

目録情報に関する質問書 / 回答書検索システムをWWWで公開

目録情報課では、NACSIS-CATを利用して目録作成を行う際に生じる目録情報に関する質問を規定の書式(「目録情報に関する質問書 / 回答書」)により受付け、回答を行っております。今回、この「目録情報に関する質問書 / 回答書」をデータベース化し、World Wide Web上で検索する標記システムのサービスを開始しました。

本システムでは、これまでに寄せられた質問書を、質問内容に基づいてセンターが与えた件名や質問書中のキーワードなどから検索できます。これにより、既に他機関で質問された内容については、センターに問い合わせることなく回答を得ることができます。データは随時追加していく予定ですので、目録業務にお役立てください。

検索システムは、以下のURLから利用できます。

<http://www.cat.op.nacsis.ac.jp/>

(目録情報課)

[\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACSISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp

国際電子メールサービスにおけるドメイン名変更

学術情報センターでは、平成2年4月から国際電子メールサービスとしてインターネットとのメール交換を行っておりますが、ドメイン名は'sinet.ad.jp'という学術情報ネットワーク管理者のためのものを流用していました。しかし、このたび国際電子メールサービス専用として、以下のドメイン名を新たに取得しましたので、利用者のドメイン名の変更をお願いいたします。

この変更にとともに、電子メールの交換を行う相手方にもドメイン名の変更を周知していただくとともに、現在のドメイン名でメーリングリストを受け取っている場合にも、忘れずに新しいドメイン名に変更していただきますよう、お願いいたします。

userid@sinet.ad.jp	userid@simail.ne.jp (新ドメイン名)
--------------------	------------------------------

なお、当分の間(概ね1年程度)は移行措置として、'userid@sinet.ad.jp'のドメイン名からも、電子メールが受け取れるよう配慮いたします。

(システム管理課)

公衆電話網経由の28.8Kbpsによるサービス開始

平成8年11月1日より、情報検索サービス、電子メールサービス共通の28.8Kbpsのアクセスポイントを千葉分館内に設置し、運用を開始しました。このアクセスポイントの通信パラメータや利用方法は、大塚地区設置のアクセスポイント(03-3942-8940)と同様となっておりますので、詳細は「利用の手引き第4版」および [NACSIS-IRのホームページ](#)等をご参照ください。なお通信パラメータは下記のとおりです。

(システム管理課)

新データベースの紹介

財団法人東洋文庫附置ユネスコ東アジア文化研究センターから、下記の4種のデータベースの提供を受け、平成8年10月1日(火)から情報検索サービスを開始しましたので、その概要等をお知らせいたします。

これにより、学術情報センター情報検索サービス[NACSIS-IRのデータベース](#)は58種となっています。

1.概要

(1)[中東・イスラーム研究文献索引データベース](#)

1)収録対象

我が国における中東およびイスラーム地域に関する人文・社会科学分野の学術文献の索引情報

2)収録範囲、収録件数

1868年以降のデータを収録し、サービス開始時の件数は14,605件。年間増加件数は約1,000件。年1回更新。

3)収録項目

標題、著者名、収録資料名、巻号、頁、言語、出版地、分野

4)呼び出しコマンド

「B I M E J」

(2)[中央アジア研究文献索引データベース](#)

1)収録対象

我が国における中央アジア地域に関する人文・社会科学分野の学術文献の索引情報

2)収録範囲、収録件数

1879年以降のデータを収録し、サービス開始時の件数は15,007件。年間増加件数は約600件。年1回更新。

3)収録項目

標題、著者名、収録資料名、巻号、頁、言語、出版地、分野

4)呼び出しコマンド

「B C A J」

(3)[アジア歴史研究者ディレクトリ](#)

1)収録対象

我が国で研究活動している東洋史研究者のプロフィールおよび発表論文情報

2)収録件数

サービス開始時の件数は1,800件。年1回更新。

3)収録項目

研究者氏名、性別、生年月日、所属機関、職名、所属機関住所、研究地域、研究課題、研究業績

4)呼び出しコマンド

「R E S A H J」

(4)[印度学・仏教学研究ディレクトリ](#)

1)収録対象

我が国で研究活動している印度学・仏教学研究者のプロフィールおよび発表論文情報

2)収録件数

サービス開始時の件数は758件。年1回更新。

3)収録項目

研究者氏名，性別，生年月日，所属機関，職名，所属機関住所，研究地域，研究課題，研究業績

4)呼び出しコマンド

「R E S B I J」

2.利用方法

データベースの内容および利用方法などについては，それぞれの「NACSIS-IRデータベースシート」をご覧ください。

なお，データベースシートはお手元のFAXから取り寄せることもできます。詳しくはセンターニュース36号の「FAX情報サービス」をご覧ください。

3.利用料金

データベースを呼び出す都度・・・30円/回

なお，利用に係る経費は，各データベースの利用額の月毎の合計額にその3%を加算した額となります。

4.その他

ユネスコ東アジア文化研究センターは，ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)と日本ユネスコ国内委員会との協力・援助によって1961年(昭和36年)に財団法人東洋文庫の附置機関として設置された調査研究機関です。現在，東アジアを中心とするアジア・北アフリカ諸地域の人文・社会科学系の研究に関するインフォメーション・センターとして，ユネスコ協力活動，学術情報活動，重要文献の保存・普及活動，研究普及活動を企画・実施しています。

また，財団法人東洋文庫は1917年(大正6年)に設けられた東洋学の専門図書館並びに研究所です。東洋学関係の図書の収集，日本人学者の研究業績の出版，東洋学の知識の普及および国際交流などで，東洋学の発展に寄与しています。

東洋文庫は東洋学研究または調査のため必要がある人は利用(閲覧等)できます。

財団法人東洋文庫 〒113 東京都文京区本駒込2丁目28番21号

TEL 03-3942-0121

(データベース課)

情報検索サービスの試験利用の開始

本センターが提供している情報検索サービス(NACSIS-IR)の試験利用を，平成8年12月2日(月)から開始しました。ただし，試験利用の期間は平成9年3月28日(金)までとなります。これにより利用申請を行う前に，様々な学術情報データベースの検索を試験的に利用することができます。接続方法および利用方法などについては，WWW(URL <http://www.nacsis.ac.jp/ir/guest-j.html>)を参照していただくか，学術情報センターニュース第36号で案内している「FAX情報サービス」(FAX:03-3942-7865)によりお手元のFAXから取り出せるようになっています。

なお，正式に利用する場合は利用申請が必要となりますので，「FAX情報サービス」から申請書を取り出すか，「サービス案内希望」と郵送先を明記し，共同利用第一係宛にFAX(03-3942-6797)で申請書を申し込んでください。

下記にFAX情報サービスの操作方法を説明します。

利用時間 月曜日～金曜日 9:00～翌日2:00 土曜日 9:00～14:00 なお，次の日は利用できません。 ・日曜日，国民の祝日および振替休日 ・年末・年始 平成8年12月28日(土)～平成9年1月6日(月)

FAX情報サービスの操作方法 (1)お手元のFAXの受話器を取ります。 受話器の無いFAXでは，手動受信に切り換えてください。 また，ダイヤル回線では，トーンボタンの切り替えを行ってください。

(2)学術情報センターのFAX情報サービスにダイヤル(03-3942-7865)します。(3)音声ガイドに従って，ご希望の資料の「BOX番号(資料番号)」と「#」を押します。(情報検索サービスの試験利用の案内は，BOX番号が「80」となっています。利用申請書等の案内は，BOX番号が「10」となっています。) (4)終了は「#」を押します。(続けるときは(3)の操作をします。) (5)FAXの「受信」ボタンを押し，受話器を置きます。(FAXにより指定した資料が送られます。)

(共同利用第一係)

[\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACSISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp

電話番号	043-285-1206
通信速度	28.8Kbps (ITU-T v.34)
データ長	8ビット
パリティ	なし(NONE)
STOPビット	1ビット

ローカルエコー	なし
フロー制御	RS/CS
かなシフト	SI/SO制御なし
改行制御	端末 --> センター CRのみを送信 センター --> 端末 CR/LFを送信
漢字コード	情報検索システム EUC, SHIFT-JIS 電子メールシステム EUC
送信区切りコード	CRコード
入力訂正コード	BSコード
処理の中断	ブレーク信号

英国国際専用回線の開通日の訂正

センターニュース第37号でお知らせしました、「日本 - 英国間の2MbpsのSINET国際専用回線」については、開通日が遅れ11月1日(金)となりました。訂正してお詫びいたします。

(ネットワーク課)

学術情報センターシステムの継続手続き

昨年同様、学術情報センターシステム(情報検索サービス、電子メールサービスおよび国際電子メールサービス)を平成9年度も引き続き利用する方は、平成9年2月3日から3月21日の期間に1または2の方法で継続手続きを行なってください。

なお、(1)支払科目を変更する場合、(2)文部省科学研究費補助金を支払科目とする場合、(3)利用期限が3月末日でない場合は、継続申請を行うことはできません。

1.学術情報センターへ直接申請した利用者

昨年同様、利用者宛へ継続利用申請書は送付しませんので、支払責任者および経理責任者と相談の上、今年度と同じ内容(登録内容に変更がない)で次年度も利用を継続する場合は「A P P L Y」コマンドにより継続の申請を行ってください。

なお、次年度から登録内容を変更する場合は、「学術情報センターシステム利用申請書」により「変更」の申請を行い、備考欄に必ず「継続後の変更」と明記してください(「継続後の変更」と明記がない場合はその年度の内容が変更されることとなり、継続の申請としては取り扱いませんのでご注意ください)。

また、継続受付期間内に継続の手続きを行わなかった場合は、平成9年4月以降の利用はできなくなりますが、6月末迄の期間は、失効した利用者番号で学術情報センターに接続すると「継続の有無」が表示されますので、継続すると答えることにより継続の申請を受け付けます(ただし、継続の手続きが終了するまで約1~2週間利用できなくなります。)

2.大型計算機センター経由により申請した利用者

利用者が所属する大型計算機センター(所属センター)へ継続申請を行った後、継続受付期間内に、所属センターから学術情報センターの継続申請を、第二センター申請コマンドにより行ってください。

なお、第二センター申請コマンドの詳細は所属する大型計算機センターへお問い合わせください。

〔各申請の受付期間〕

- 平成8年度 新規・追加の受付 平成9年2月28日(金)まで
- 平成8年度 変更・取消の受付 平成9年3月28日(金)まで
- 平成9年度への継続の受付 平成9年2月3日(月)から3月21日(金)
- 平成9年度 新規の受付 平成9年4月1日(火)から

ただし、平成9年度の学術情報センターへの新規申請は平成9年3月24日(月)から受け付けます。

〔継続申請の方法〕

	利用者種別	継続条件	継続手続き
継続処理	学術情報センターへの直接申請による利用者	登録内容に変更なし	「APPLY」コマンドにより継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	利用申請書に必要事項を記入・押印のうえ備考欄に「継続後の変更」と明記し申請する。
	大型計算機センター経由による利用者	登録内容に変更なし	利用者が所属する大型計算機センターへ継続の申請を行った後、第二センターとして学術情報センターへの申請を第二センター申請コマンドで継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	
継続を失念した場合	学術情報センターへの直接申請による利用者	登録内容に変更なし	失効した利用者番号で学術情報センターに接続し、「継続の有無」の問い合わせで継続の申請を行う。
		登録内容に変更あり	失効した利用者番号で学術情報センターに接続し、「継続の有無」の問い合わせで継続の申請を行った後、利用申請書で変更の申請を行う。
	大型計算機センター経由による利用者	登録内容に変更なし	利用者が所属する大型計算機センターへ申請(継続・新規とも)した後、第二センターとして学術情報センターへの申請を第二センター申請コマンドで新規に申請する。
		登録内容に変更あり	

〔申請書の登録内容〕

登録内容の確認 継続受付期間内は「APPLY」コマンドで確認できます。4月以降は「CHKAPPLY」コマンドで確認できます。

(共同利用課)

科学研究費補助金による利用期限(2月15日)

学術情報センターシステムの利用料金の支払いのうち、文部省科学研究費補助金によるものの利用期限は、平成9年2月15日(土)までになります。利用料金の請求(納入告知書)は、平成9年2月20日頃に送付する予定です。

なお、CHARGEコマンドによる利用料金参照機能も、2月15日(土)以降は利用出来ませんので、2月の利用料金についてはデータベース検索終了時に表示される利用料金の内訳をご覧ください。

(共同利用第一係)

「学術雑誌目次速報データベース」の進捗状況とマニュアルの改訂

前々号以降、「学術雑誌目次速報データベース」に対するデータ提供の申込みが20機関からあり、平成8年10月25日現在データ提供機関の参加状況は以下のとおりです。

	機関数	組織数	雑誌数
国立大学	68	166	897
公立大学	10	13	53
私立大学	88	95	505
短期大学	27	27	58
高等専門学校	16	16	18
その他	16	16	34
合計	225	333	1,565

(最新の参加機関，収録対象雑誌の一覧はWWWでも見ることができます。URLは<http://www.sokuho.op.nacsis.ac.jp/articles/menu.html>です。)

データベースの収録件数は45,500件になりました。

また，データの作成方法などを説明した「データ入力説明会資料」を改訂し，「学術雑誌目次速報データベース作成マニュアル」を発行しました。データの作成や送付についての変更はありませんが，データベースに収録した記事データを任意の条件で抽出し，電子メールで各参加組織に配付する機能や，遡及入力作業を支援するための遡及用データを各参加組織が入手する手順などを説明しています。この作成マニュアルは各参加組織へ順次お送りしています。

なお，このデータベースに関するお問い合わせは，データベース課文献データベース係(TEL.03-3942-6975～6, FAX. 03-3942-9398)までお願いします。

(データベース課)

[\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACISISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp

学術情報センターニュース 第38号 5/8

last update: 1996.12.25

[\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

接続ニュース

前号以降，新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は，以下のとおりです。なお，今回は平成8年4月1日以降に参加機関となった図書館を掲載していません。

(平成8年11月26日現在)

No.	機関名	接続日	No.	機関名	接続日
447	ルーテル学院大学	8. 4. 1	465	苫小牧工業高等専門学校	8. 7.29
448	国際交流基金	8. 4. 4	466	京都文教大学	8. 8. 5
449	神戸女子大学	8. 4.15	467	松阪大学	8. 8.19
450	埼玉短期大学	8. 4.19	468	福島県立図書館	8. 8.23
451	常葉学園富士短期大学	8. 4.26	469	大阪商業大学	8. 8.28
452	西南女学院大学	8. 5.14	470	麻布大学	8. 9. 5
453	東京国立博物館	8. 5.24	471	富山工業高等専門学校	8. 9. 6
454	放射線医学研究所	8. 5.31	472	宮崎産業経営大学	8. 9.11
455	平成国際大学	8. 6.10	473	東京神学大学	8. 9.12
456	長崎外国語短期大学	8. 6.20	474	日本赤十字秋田短期大学	8. 9.26
457	呉工業高等専門学校	8. 6.28	475	長野工業高等専門学校	8.10. 9
458	養殖研究所	8. 7. 4	476	国際仏教学大学院大学	8.10.14
459	西九州大学	8. 7. 4	477	松山東雲女子大学・短期大学	8.10.16
460	名古屋造形芸術大学	8. 7. 4	478	明海大学	8.10.18
461	豊田工業高等専門学校	8. 7. 9	479	日本女子大学	8.11. 1
462	福山平成大学	8. 7.10	480	東海大学福岡短期大学	8.11. 5
463	東京国立近代美術館	8. 7.17	481	佐世保工業高等専門学校	8.11. 7
464	徳山工業高等専門学校	8. 7.29			

この結果，参加機関数は，国立大学98，公立大学35，私立大学242，共同利用機関12，短期大学33，高等専門学校13，その他48，合計481となりました。

(共同利用第一係)

NACSIS-ILL利用状況(平成8年前期)

平成8年度前期のNACSIS-ILLシステムの利用状況は以下のとおりです。

1.利用機関

区分	国立大学	公立大学	私立大学	その他	計
機関数	98	17	135	57	307

参加組織数	234	23	160	60	477
-------	-----	----	-----	----	-----

2.月別レコード件数

年月	複写	貸借	計
1996年4月	42,817	1,657	44,474
5月	59,152	2,657	61,809
6月	54,482	2,967	57,449
7月	58,790	3,395	62,185
8月	46,665	2,501	49,166
9月	52,247	2,683	54,930
合計	314,153	15,860	330,013

3.図書館種別の流動

上段：複写件数 中段：貸借件数 下段：合計

		受付館				
		国立大学	公立大学	私立大学	その他	合計
依頼館	国立大学	236,827	535	7,134	7,808	252,304
		9,152	151	1,271	587	11,161
		245,979	686	8,405	8,395	263,465
	公立大学	5,910	332	2,130	362	8,734
		237	22	168	40	467
		6,147	354	2,298	402	9,201
	私立大学	13,979	1,063	24,606	1,397	41,045
		1,140	107	1,733	257	3,237
		15,119	1,170	26,339	1,654	44,282
	その他	7,580	512	3,601	377	12,070
		633	14	256	92	995
		8,213	526	3,857	469	13,065
	合計	264,296	2,442	37,471	9,944	314,153
		11,162	294	3,428	976	15,860
		275,458	2,736	40,899	10,920	330,013

(相互協力係)

[\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACSISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp

学術情報センターニュース 第38号 6/8

last update: 1996.12.25 [\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

NACSIS-IRデータベース収納状況

平成8年11月29日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金研究成果概要データベース	171,792	1985年4月～
2	学位論文索引データベース	149,560	1953年9月～
3	学会発表データベース	272,317	1987年3月～
4	学術論文データベース第一系(電子系)	全文	1989年4月～
		抄録	
5	学術論文データベース第二系(化学系)	19,382	1983年1月～
6	学術論文データベース第五系(理学系)	9,245	1990年11月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	1992年1月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	5,365	1964年～
9	経済学文献索引データベース	146,868	1983年1月～
10	学会予稿集電子ファイル	193,826	1948年11月～
11	臨床症例データベース	7,495	1981年1月～
12	学術雑誌目次速報データベース	47,666	1938年1月～
13	科学研究費補助金採択課題データベース	30,734	1996年度～
14	雑誌記事索引データベース	1,403,953	1984年1月～
15	民間助成決定課題データベース	3,939	1994年4月～
16	現行法令データベース	3,865	1996年5月現在
17	維新史料綱要データベース	28,667	
18	古文書目録データベース	3,014	
19	木簡データベース	15,925	
20	研究者ディレクトリ	130,292	1995年5月現在
21	データベース・ディレクトリ	1,856	1995年7月現在
22	家政学文献索引データベース	106,353	1945年～
23	RAMBIOS	10,309	1983年4月～
24	化学センサーデータベース	18,086	1975年1月～
25	日本独文学会文献情報データベース	26,393	1947年～
26	スラブ地域研究文献データベース	3,373	1988年～
27	電気化学データベース	81,846	
28	文化財科学文献データベース	19,069	1879年～
29	化学と教育誌データベース	3,537	1972年～

30	現代邦楽作品データベース		1,665	1963年～
31	日本建築学会文献索引データベース		71,781	1976年～
32	北海道大学北方資料総合目録データベース		43,800	
33	中東・イスラーム研究文献索引データベース		14,605	
34	中央アジア研究文献索引データベース		15,007	
35	アジア歴史研究者ディレクトリ		1,799	
36	印度学・仏教学研究ディレクトリ		759	
37	Life Sciences Collection PULS Marine Biology and BioEngineering		1,693,217	1982年1月～
38	MathSci		1,812,088	1940年1月～
39	COMPENDEX PLUS		3,385,844	1976年1月～
40	Harvard Business Review		2,860	1927年1月～
41	ISTP & B		2,877,697	1982年1月～
42	EMBASE		4,005,011	1984年4月～
43	SciSearch		10,313,645	1983年1月～
44	Social SciSearch		1,786,218	1983年1月～
45	A & H Search		1,604,045	1983年1月～
46	目録所在情報データベース(和図書)	書誌	1,257,702	
		所蔵	16,751,684	
47	目録所在情報データベース(洋図書)	書誌	2,498,167	
		所蔵	8,033,368	
48	目録所在情報データベース(和雑誌)	書誌	82,647	
		所蔵	1,694,062	
49	目録所在情報データベース(洋雑誌)	書誌	129,763	
		所蔵	1,145,484	
50	科学技術関係欧文会議録データベース		49,044	1985年1月～
51	アメリカン・センター図書館総合目録データベース		5,883	1993年10月現在
52	JPMARC		1,839,281	1868年1月～
53	LCMARC(Books)		4,129,492	1968年1月～
54	LCMARC(Serials)		725,252	1973年1月～
55	大型コレクションディレクトリ		530	1978年4月～
56	日本の医学会会議録データベース		22,128	1990年～
57	国会図書館洋図書目録データベース		153,159	1986年～
58	学術関係会議等開催情報(日本学術会議編)		18,496	1991年4月～
59	学協会集会スケジュール(日本工学会編)		7,179	1992年7月～

(システム業務係)

NACSIS-CATデータベース構築状況

平成8年11月29日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総合目録データベース	和図書	書誌	1,262,839	
		所蔵	16,849,958	
	洋図書	書誌	1,774,427	
		書誌(遡及)	730,176	
		所蔵	8,068,030	
	和雑誌	書誌	83,880	
		所蔵	1,872,659	
	洋雑誌	書誌	122,342	
		所蔵	1,163,408	
	著者名典拠		901,713	
	統一書名典拠		11,364	
	和雑誌変遷マップ		9,939	
	洋雑誌変遷マップ		13,326	
参照ファイル	LC/MARC	洋図書書誌	4,986,692	1968年1月～1996年10月
		洋雑誌書誌	727,381	1973年1月～1996年11月
		非文字書誌	268,147	1973年1月～1993年7月
		洋書著者名典拠	2,945,772	1977年1月～1996年11月
		洋書統一書名典拠	175,197	1977年1月～1996年11月
	JP/MARC	和図書書誌	1,846,359	1948年1月～1996年11月
		和雑誌書誌	100,582	1968年8月～1996年9月
		和書著者名典拠	327,561	
	UK/MARC	洋図書書誌	1,591,508	1950年1月～1996年11月
	TRC/MARC	和図書書誌	519,795	1985年4月～1996年11月
	GPO/MARC	洋図書書誌	401,168	1976年1月～1996年10月

(システム業務係)

[\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACSISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp

平成8年度総合目録データベース実務研修終了報告

平成8年度総合目録データベース実務研修を，第1回が平成8年10月14日から11月1日まで，第2回が11月11日から11月29日までの日程でそれぞれ3週間にわたり学術情報センターにおいて開催しました。

今年度は，27大学から34名の申込があり，各回定員の12名の研修員を選考し，下記の方々が，研修の全課程を無事修了しました。これにより，同研修の修了者数は303名になりました。

この実務研修の目的は，学術情報センターと接続し総合目録データベース形成を行う図書館等における指導的，中核的人材を養成することで，具体的には当該図書館等における目録業務担当者の指導をはじめ，学術情報センターと共催で実施する地域講習会の講師等を行う高度な知識と技術を修得することです。

修了された方々の今後の活躍が大いに期待されます。

平成8年度 総合目録データベース実務研修修了者名簿

第1回

和田 洋一	総合研究大学院大学
和田 さくら	明治大学
前田 朋彦	鳴門教育大学
瀬戸 優子	九州大学
小倉 生栄	神戸大学
伊藤 民雄	実践女子大学
赤野 徹	山口大学
次良丸 章	名古屋大学
真中 孝行	図書館情報大学
浅間 庸子	新潟大学
秦野 智世	京都大学
萱野 靖子	広島大学

第2回

中山 貴弘	神戸大学
柴尾 晋	明治大学
井内 義寿	香川医科大学
織田 裕行	京都大学
児玉 良子	東京学芸大学
林 裕紀子	金沢大学
大龍 礼二	九州大学
茅根 邦子	筑波大学
中尾 康朗	熊本大学
野村 智子	宮崎大学

志波原 智美 長崎大学
遠山 正宏 上越教育大学

(研修課)

平成8年度学術情報センター・セミナーの開始

平成8年度学術情報センター・セミナーを、以下の3名の研修員を迎え、平成8年10月7日から開始しました。

このセミナーは、高度化する学術情報システムの環境に対応しうる知識と技術を修得し、各大学において今後の学術研究活動支援の中核となる要員を育成することを目的として実施しています。

1.研修員

原 修 (立教大学図書館)
多久島 智 (九州大学大型計算機センター)
坂本 江見 (富山大学総合情報処理センター)

2.研修期間

平成8年10月7日～12月20日、平成9年1月13日～2月28日(計18週間)

3.その他

各研修員の研修成果は、「平成8年度学術情報センター・セミナー研究レポート」として刊行する予定です。

(研修課)

神戸大学共催の目録システム地域講習会(雑誌コース)終了報告

平成8年11月12日(火)から11月14日(木)まで神戸大学との共催により、目録システム地域講習会(雑誌コース)を開催しました。神戸大学をはじめ、関西近郊の大学、県立図書館などから12名が受講され全員無事全過程を修了しました。なお、講師には神戸大学附属図書館、大阪大学附属図書館、京都大学附属図書館、学術情報センターの職員があたり、講義・実習を分担担当しました。

目録システム講習会は平成7年度より「図書コース」「雑誌コース」に分けて開催してきましたが、地域講習会では図書コースのみが開催されてきました。当初より、地域講習会での雑誌コース開催の要望が多く寄せられており、今年度初めて神戸大学のご協力により地域講習会(雑誌コース)を開催し無事終了しました。ご協力いただきました関係者各位に厚くお礼申し上げます。

(研修課)

[\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#) [\[次へ\]](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACSISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp

創立10周年記念講演会

去る11月1日(金)午後2時から、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)の国際会議場において、創立10周年記念講演会を開催しました。記念講演会では、はじめに、佐和隆光京都大学経済研究所長が、「21世紀の政治・経済システム」について講演を行いました。

佐和所長の講演は、日本をとりまく世界的な政治・経済環境が劇的な変化をする中で、アジア諸国と日本が直面する政治的・経済的な課題について、どのように対処すべきか、と言う問題点を明解に解きあかし、専門の経済学の視点から情報・通信分野の果たす役割の重要性を指摘するとともに、21世紀に向けて我が国が目指すべき指針を多岐にわたって紹介された。

続いて、青木利晴日本電信電話株式会社常務取締役・研究開発本部長が、「わが国のマルチメディアネットワークの将来」について講演を行いました。

青木本部長の講演は、日本における情報通信ネットワークが今後どのように発展していこうとしているのか、情報通信の量的な拡大とあわせて、マルチメディア化という質的な変化が展開しつつある状況を分かりやすく解説し、次世代の日本のマルチメディアネットワークの将来像を具体的な例証を、コンピュータのデータを直接演壇上のスクリーンに映し出して紹介され、出席者の関心を集めていました。

本センターの10周年記念にふさわしい講演内容であったと、出席者から盛大な拍手と好評をいただきました。

創立10周年を期に、新たな発展を目指す本センター職員・関係者にとっても、本センターの将来を想起するために大変有意義なものとなりました。この両氏の全講演内容は、本センターの紀要に掲載し紹介する予定です。

(総務課)

データベース'96 TOKYOなどに出展

さる、9月11日(水)から13日(金)の3日間、池袋サンシャインシティ・コンベンションセンターにおいて、データベース振興センター・日本データベース協会主催により、内外のデータベースや電子情報サービスについての最新システムを一堂に集めた「データベース'96 TOKYO」が開催された。同展示会は今年で8回目を迎え、毎年3万人以上の入場者を誇っており、今年の3日間の総入場者数は34,014名であった。

学術情報センターからも事業の紹介と学術情報の流通の促進を図るため昨年に引き続き出展し、インターネットを介しての電子図書館サービス(NACSIS-ELS)、情報検索サービス(NACSIS-IR)、目録所在情報サービス(NACSIS-CAT/ILL)、学術雑誌総合目録CD-ROMの実演などを行った。研究者の方々は来年度から本格サービスを予定している電子図書館サービスの関心が高く、本センターブースでのデモンストレーションに熱心に耳を傾けていた。また、情報検索サービスの関心もかなり高く、利用できるデータベースなどについて多くの質問があった。図書館職員の方々は学術雑誌総合目録CD-ROMに関心が高く、検索方法やCD-ROMの販売時期・入手方法などについて質問があった。

また、10月23日(水)から25日(金)の3日間、ビーコンプラザ(大分県別府市)において「第82回全国図書館大会」が開催され、2,400名以上の図書館関係の方々が参加された。本センターも大学などの図書館、公共図書館などに事業の紹介などを行うため同

大会の「機器展示会」に出展し，インターネットを介した各サービスの実演などを行った。「データベース'96 TOKYO」と同様に電子図書館サービスの関心が高く，平成9年度からのサービス開始が待たれているようであった。

(共同利用第一係)

人事異動

	発令年月日	氏名	新官職名等	旧(現)官職名
併任	8.9.1	児玉 文雄	研究開発部研究動向調査研究系理工系研究部門教授	東京大学大学院工学系研究科教授
採用	8.10.1	藤野 貴之	研究開発部システム研究系超高速通信方式研究部門助手	
転出	8.10.1	志津田 嘉康	国立科学博物館普及部普及課博物館情報専門官	事業部ネットワーク課専門職員(国際情報担当)
職務命令	8.10.1	志津田 嘉康	国際情報専門員免	
転入	8.11.1	山崎 信広	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係長	九州大学大型計算機センターシステム運用掛システム運用主任
所内異動	8.11.1	大山 貢	事業部ネットワーク課専門職員(国際情報担当)	事業部ネットワーク課ネットワーク管理係長

(人事係)

[\[目次へ\]](#) [\[前へ\]](#)

[\[学術情報センター出版物のページへ\]](#) [\[NACSISホームページへ\]](#)

wwwadm@nacsis.ac.jp